

事業概要

【事業セグメント】

1. 自動車関連事業

自動車関連事業は、パイオラックス全体の売上高の約9割を占める主力分野です。

当社は、金属や樹脂をはじめ、あらゆる素材が持つ「弾性(ばね)」技術を応用した製品づくりを行う開発型自動車部品メーカーです。この強みと特性を生かすことで、多様な顧客ニーズに合った製品を提供することができ、当社の今日までの発展につながっています。

自動車部品の使用配置図

駆動系部品



トランスミッションなどの駆動機構に用いられるリテーナーアセンブリや、部品保持力を高めるためのスナップリングなど

開閉機構部品



グローブボックスの開閉機構に用いられるエアダンパーやラッチが主力商品

EV 関連部品



バスバーやガスターミナルなどの、バッテリーおよびモーター関連の部品

クランプ部品



パイプとゴムホースの接合部で、漏れ防止や抜け止めの役目を果たすホースクランプなど

ハーネス部品



車体の中を血管のように縦横に走る電線(ハーネス)類を束ねたり、車体パネルに固定したりするためのバンドクリップやテープ巻きクリップなど

ファスナー部品

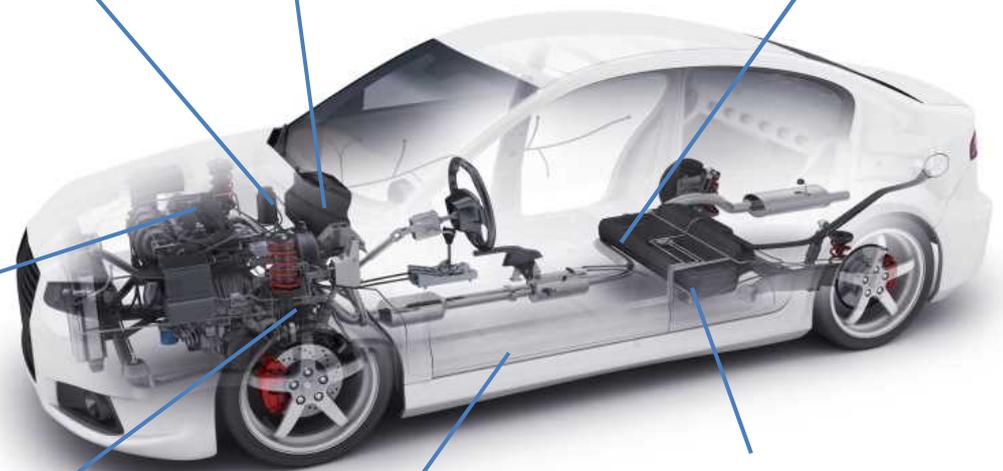


内外装部品や配管類を車体に固定する、トリムクリップなどのさまざまな樹脂ファスナー、金属ファスナーなど

燃料系部品



燃料を安全で確実に給油・貯蔵・供給するために用いられる各種バルブ、コネクタ、フィルターなど



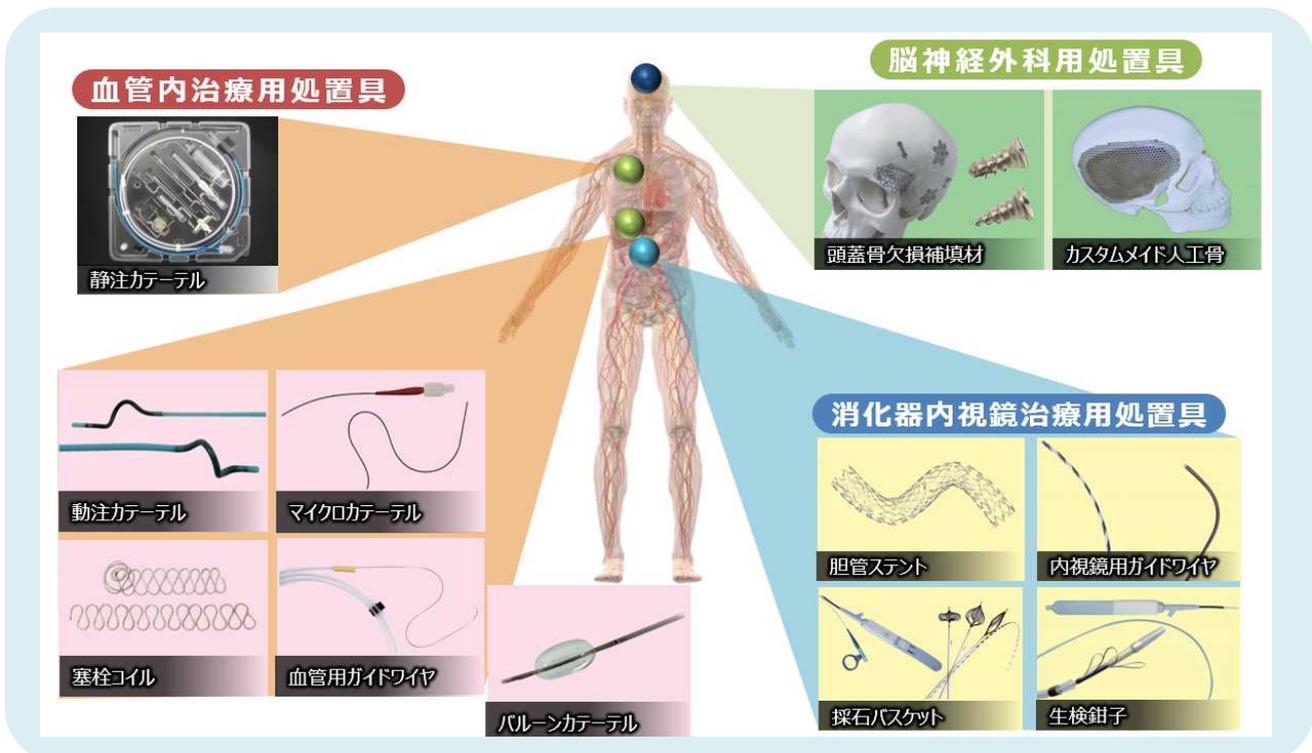
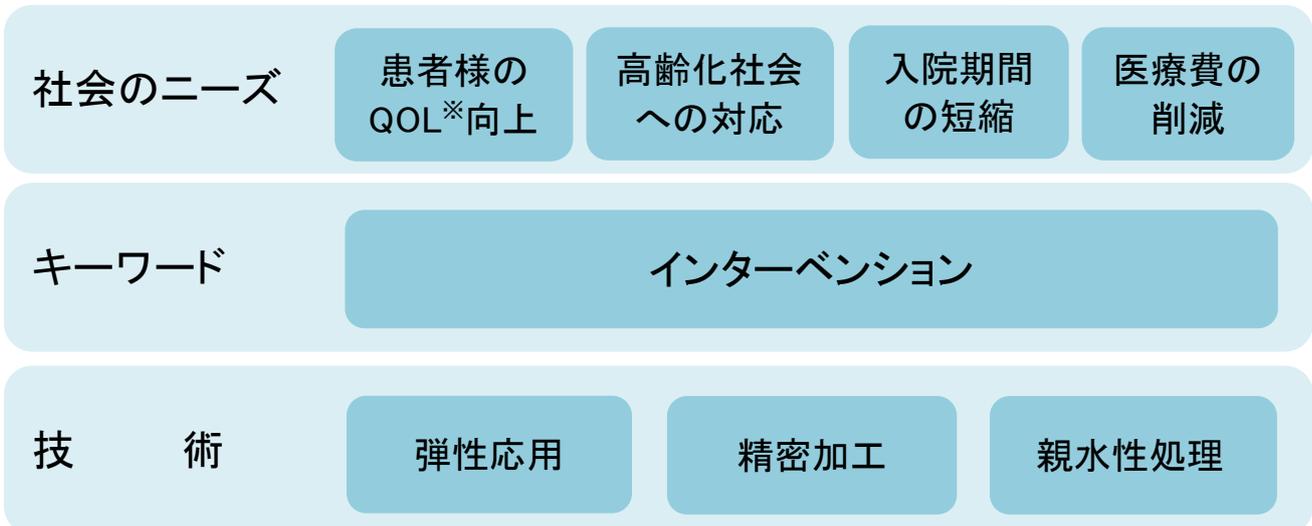
2. 医療機器事業

子会社のパイオラックスメディカルデバイス(PMD)は、当社が自動車部品の開発・製造で培ってきた弾性技術をベースに、独自技術を付加した医療機器事業を展開しています。

従来はメスを用いた外科的手術が中心でしたが、患者様の身体的負担や出血、長期入院など、さまざまな課題がありました。PMDが目指す「インターベンション治療」は、患者様の体に大きな傷をつけることなく、皮膚に開けた直径2mmほどの穴や小切開から、体内や血管にデバイスを送り込んだり、内視鏡を介して処置具を送り込んだりする治療のことです。外科的治療に比べ身体的負担が軽いインターベンション治療を通じて、早期の社会復帰が可能な「人に優しい医療」を実現しています。

パイオラックスメディカルデバイスの目指す利用分野

※QOL: Quality of Life



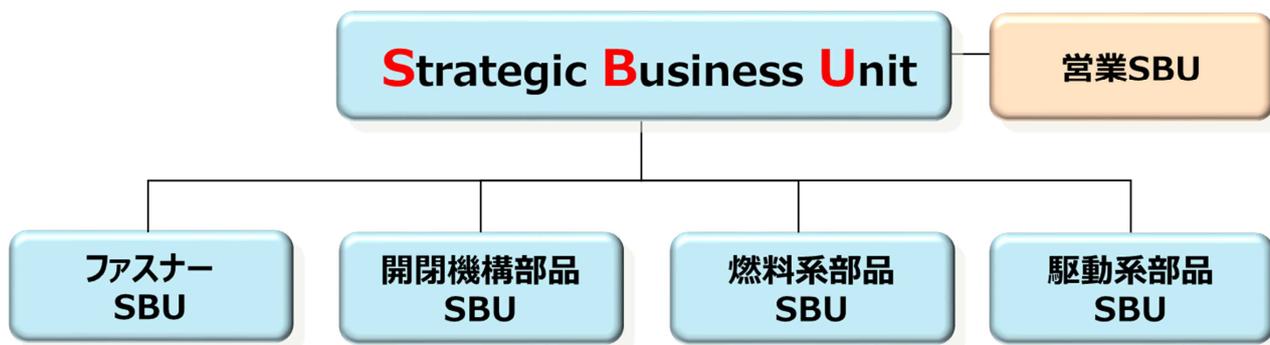
【組織】

1. SBU 制

当社が生産している自動車関連部品には、ファスナー部品、開閉機構部品、燃料系部品、駆動系部品などがあり、これらの商品分野別に SBU(戦略的ビジネスユニット)制を導入しています。

各商品SBUにはマーケティング・開発・製造の担当部署が設置されており、営業SBUと連携しながら商品毎の市場変化に迅速に対応した独自の戦略を立案・実行することで、市場やお客様の要望に対して機動的に対応できる体制を構築しています。

パイオラックス SBU 体制



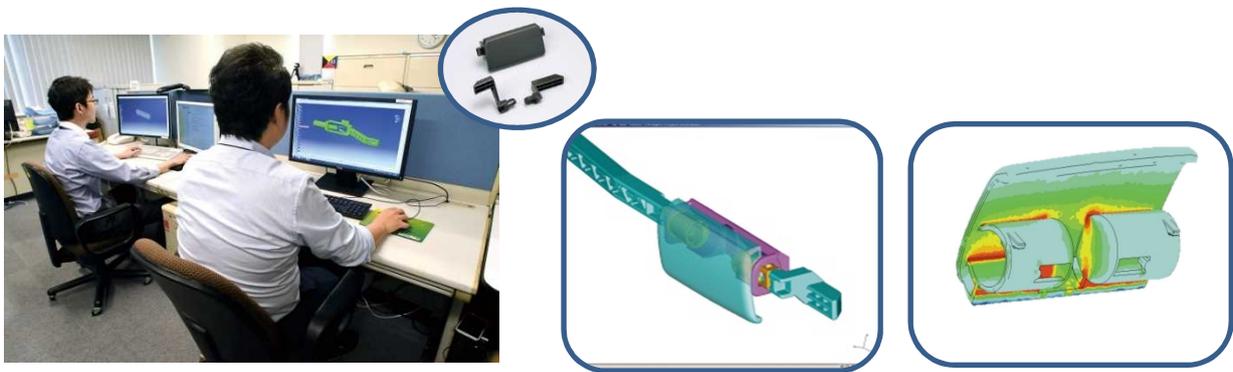
2. 設計開発

パイオラックスグループは開発提案型企业として、設計開発部門を日本を中心に海外拠点のアメリカ、イギリス、韓国、中国、タイ、インドに展開しており、高い創造力と確かな技術力により、お客様のニーズを的確に捉え図面化できる体制を構築しています。

横浜テクニカルセンターは、設計開発のグローバルセンターとして、設計開発・営業・調達の各部門を同じフロアに配置することで、部門間のシームレスな連携ができる環境を整え、グローバルでの開発力の「同期化」と「同質化」を推進しています。

また、製品試験設備を横浜テクニカルセンター、真岡工場、富士工場の3事業所に配置し、最適な品質評価が行える体制を取っています。





図面検討

デジタルモックアップ※によるレイアウト検証と構造解析

※デジタルモックアップ(DMU) : 3D データを使用して、実物の試作品を作成せずにデザインの検証や干渉チェックを行うシステム



製品環境性評価、実装耐久試験



素材の環境負荷物質評価

<知的財産への取り組み>

基本的な考え方

パイオラックスグループでは、知的財産(特許、実用新案、意匠、商標、著作権、営業秘密など)に対する考え方として、①第三者の知的財産権を尊重し、侵害しないように努めること、②知的財産の合理的活用を図り、当社の利益に貢献すること、③当社特許プレゼンスの向上に努めること、の3点に重きを置き、関係部署やグループ会社と連携し、適切に知的財産を創造・保護・管理・活用しています。

知的財産活動

パイオラックスでは、職務発明に対して報奨金制度を設け、活発な知的財産の創造を促すとともに、社内教育を定期的実施して知的財産に関する理解を深めるなど、適切な取り組みを推進しています。また、中期経営計画の重要戦略の1つである「CASE 対応商品の開発」に伴い、特許戦略提案活動を行っています。対象とするCASE 対応商品について、社内外の特許情報を多角的に分析し、開発の方向性を定めることで、強力な特許網を構築することを目的としています。

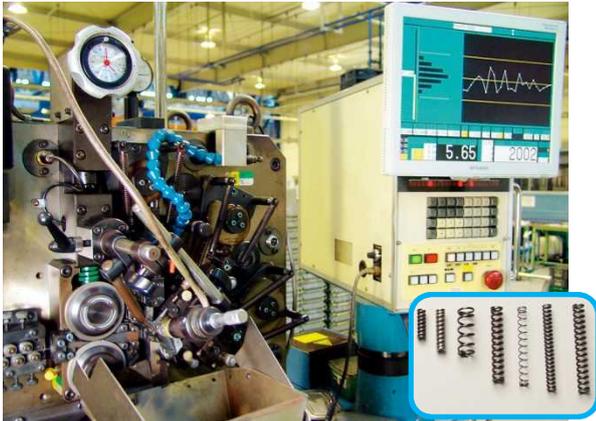
権利保有件数(当社グループ) 2022年3月31日現在 (件)

	特許	実用新案	意匠	商標
日本	432	0	38	91
外国	377	2	30	73

3. 生産技術

開発提案型企業にふさわしい製造技術力の構築とグローバル同質化を目指し、ファスナー部品と開閉機構部品は真岡工場、燃料系部品と駆動系部品は富士工場を中心に製造ラインを配置し、継続的な改善によるロス排除、グローバル生産性の向上、新工法の開発に取り組んでいます。

工程紹介



線ばね巻き線加工



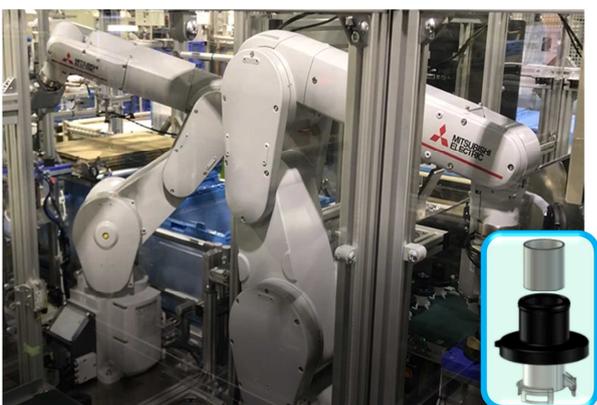
板ばねプレス加工



樹脂射出成形



セル生産ライン



省人化:ロボット組立ライン



自動化:フレキシブル組立ライン

【商品・顧客戦略】

CASE に向けた取り組み

「e」をキーワードに新しい価値の創造へ

自動車業界は、「CASE*」と呼ばれる新しい領域で技術革新が進み、100年に一度といわれる大変革期を迎えています。車輛の機能を司るシステムや構造が一変することで、サプライチェーンも大きく変化していきます。その変化に迅速に対応し、CASE対応商品の受注拡大を強化していくために、2022年4月に「e商品開発部」が新設されました。

私たちe商品開発部は、CASEのエフェクターとなるキーワードの頭文字「e」を手がかりに、営業、開発、生産技術を一体化した組織でこの領域に取り組み、具体的な活動を開始しております。当社の商品の中には、自動車の電動化により、今後受注の減少や消滅が見込まれる商品があります。このリスクを新たなビジネスチャンスと捉え、中期経営計画で掲げているCASE対応商品売上高 100 億円を目標に、開発および受注拡大にチャレンジしています。

現在当部で開発、拡販のターゲットとしている商品は、電動化に対応するバッテリー関連商品、自動運転機能となる ADAS(先進運転システム)に関連したセンサー・カメラ周辺機器、今後 EV 化を加速させると言われている動力装置 e-Axel(EV 駆動モータシステム)関連商品、電動化による車内の静音性への要求に応える制振関連商品などです。CASE が進むことで、私たちの生活の質がさらに高まり、持続可能な社会への貢献になると考えます。クルマにかかわる多くの人たちからたくさんの「いいね！」を頂けるよう、新たな価値の提供に取り組んでまいります。

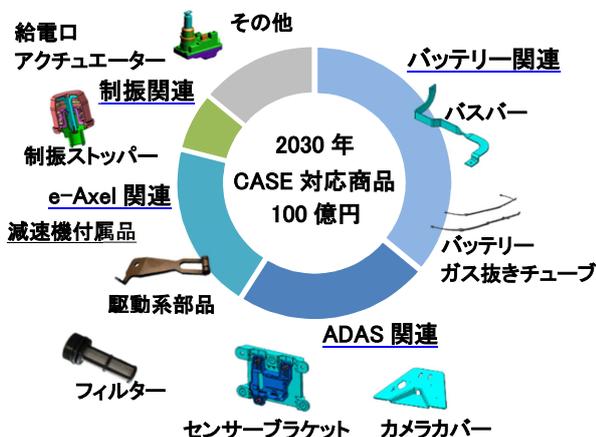
* CASE: Connected(コネクティッド)、Autonomous/Automated(自動化)、Shared(シェアリング)、Electric(電動化)



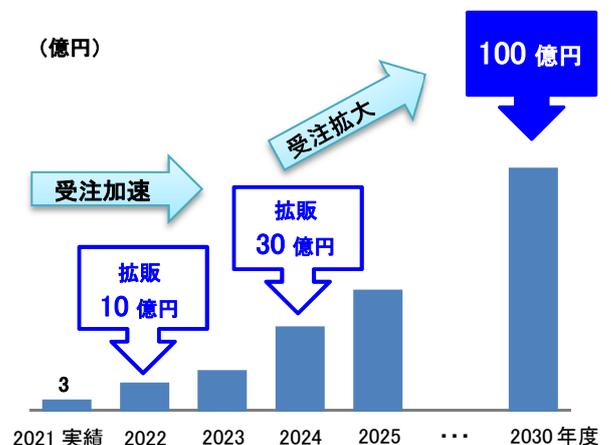
執行役員 e商品開発部長 山田 聡

e 商品開発部 electricity: 電流	electrify: 電動	environment: 環境
	electromagnetic: 電磁	e: e メール、e コマース
	electrowave: 電波	e: いいね!

拡販ターゲット製品シェア



CASE 対応商品拡販計画



【事業戦略】

MIRAI 事業部設立

2022年4月にMIRAI事業部を新設しました。自動車、医療、製造業など当社グループの既存事業分野にとらわれない新たな事業発掘にチャレンジしています。当社グループの未来(MIRAI)に向け持続的成長をけん引していく第3の事業に成長させることを目指します。2022年6月には横浜エリアのスタートアップを支援するプログラム「YOXO (Yokohama Cross Over)」のパートナー企業となり、創業の地、横浜で新たな創造に取り組んでいます。新規事業の発掘は、正解のないトライアンドエラーの繰り返しとなりますが、これまでと全く異なる分野に目を向けることで新しい発想が生まれ、新しい企業像を作っていくことが期待されます。



医療機器事業の強化

1999年に医療機器事業を分社化し、パイオラックスメディカルデバイスを設立しました。同社は中期経営計画(2022~2024年度)で、内視鏡事業の国内シェア拡大と新製品投入による新規売上高の上積み10億円を目標に掲げています。投入製品は内視鏡事業製品、消化器内視鏡ガイドワイヤー、アジア地域向け肝癌カテーテル治療製品です。医療機器事業が連結事業全体に占める割合はまだ1割未満ですが、新製品投入のスピードを早め、自動車事業に次ぐ大きな事業の柱に育て、医療を通じた社会貢献につなげてまいります。

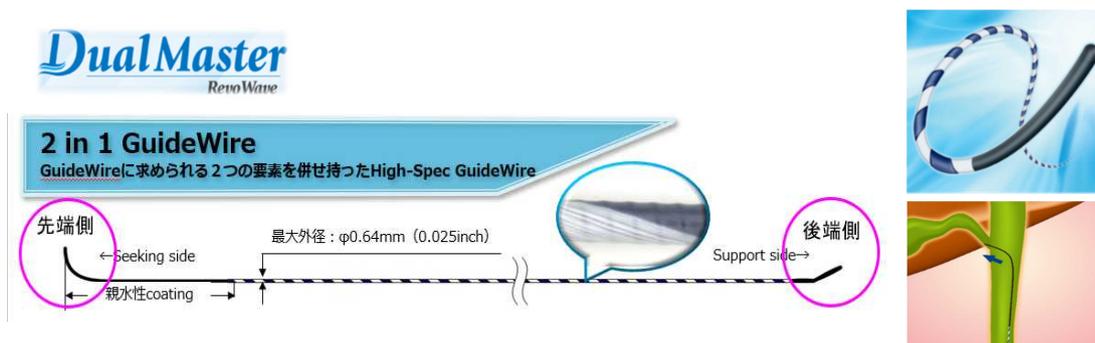
新商品紹介 消化器内視鏡用ガイドワイヤー RevoWave DualMaster (レボウェーブ・デュアルマスター)

「1本のガイドワイヤーで治療が完遂できる」をコンセプトに開発した新たな消化器内視鏡用ガイドワイヤー「RevoWave DualMaster」が、2022年秋に新発売となります。

ガイドワイヤーは、細く柔らかい針金のような形状の医療器具で、血管内治療や内視鏡治療で使用するカテーテルなどの医療器具を病変部まで導く役割(ガイド)を果たす製品です。その先端形状は製品により異なり、医師は使用する部位の状態に応じて、複数本のガイドワイヤーを使用するのが通例です。

“Dual” Masterはその名の通り、両端が使用できる設計です。パイオラックスメディカルデバイス独自の技術で、ガイドワイヤー表面を凹凸(波状)構造にして滑り性能を向上させたことに加え、ガイドワイヤー両端部の柔軟性を先端と後端で変え、解剖や病変の違いによって使い分けられるようにしました。

主に胆膵内視鏡治療にあたる医師が、従来のガイドワイヤーでは複数本使用して治療していた症例も1本で治療が完遂できます。



【地域別戦略】

当社グループは中期経営計画(2022~2024年度)で、グローバルで効率よく稼ぐ体制の強化を掲げています。北米拠点(米国・メキシコ)では生産の現地化推進、非日系 OEM への拡販を軸に売上拡大を目指します。中国拠点では販売体制を強化し、中国 OEM を中心に非日系 OEM への拡販強化と併せ、中国環境規制に対応したビジネス展開を図ってまいります。アセアン拠点では自動化・省人化を進め、収益力拡大を目指します。

欧州大陸戦略 — ドイツ駐在員事務所設立

欧州大陸戦略の足掛かりとして、2022年2月にドイツのデュッセルドルフに駐在員事務所を開設しました。自動車のCASE、EV化が急速に進む欧州地域は戦略的重要市場であり、主力商品の内外装部品はもちろん、CASE関連商品であるバッテリー、センサー、モーター用部品など商品領域を強化し、既存の英国拠点とも連携の上、欧州OEMへの拡販を進めてまいります。英国を加えた今後の欧州生産体制の再構築についても検討を進めてまいります。

【成長投資戦略】

国内では、将来の成長に向けたインフラ整備を進めています。2022年度より本格的に新真岡工場の建設がスタートします。第1期工事の完了は2023年度を予定しています。2030年度までに第2期工事、第3期工事と順次進め、次世代型の設備や成形ラインの導入、AIやIoT技術、DXの活用などにより、現工場と比して2030年度生産性200%を目指します。また、カーボンニュートラルへの取り組みも積極的に進めます。

併せて、2022年度より横浜地区のリニューアルプロジェクトにも着手しています。2021年度に老朽化への対応として本社を移転し、2022年度より旧本社の解体が始まります。今後、働き方改革の状況も踏まえながら本社と横浜テクニカルセンターを含めた横浜地区全体のインフラ整備を進め、間接部門の生産性向上を目指します。

将来のパイオラックスグループをけん引するCASEや新規事業への投資、研究開発費、DX、環境対応関連への設備投資など、当社の成長を支える投資については積極的に行ってまいります。

【経営資本戦略】

2022年6月に発表した中期経営計画の中で、経営資本戦略として、資本効率の追求、株主還元、そしてESG経営の推進の3点を重点取り組み課題として取り上げています。

資本政策の変更

2022年度は資本政策の見直しを実施しました。株主還元の強化やグループキャッシュマネジメントの徹底で、資本効率の改善を企図し、バランスシートを一層重視した経営を進めてまいります。

	2023年度 経営指標(前回)	2024年度 経営指標(今回修正)	2022~2024年度 3カ年 資本政策	
ROE	8%以上 (最終目標:10%以上)	8%以上 最終目標:10%以上、EVA スプレッドのプラス化		■ 自己資本の積み増しの抑制 ■ 配当性向100% ■ 機動的な自社株の購入/消却
連結配当性向	30%以上	100%		